

# 生涯スポーツ演習Ⅱにおける学生による 授業評価について

山口 良博・岩本 哲也・下谷内勝利  
末次 美樹・鈴木 淳平・柳 浩二郎

## I. はじめに

『レジャー白書 2012』<sup>1)</sup>によると、1993年の1860万人をピークに減少してきているスキー・スノーボード人口は、2011年には970万人（スキー630万人、スノーボード340万人）にまで減少している。しかしながら、子どもから高齢者にまで幅広い活動の場として多様な楽しみ方を提供している生涯スポーツという点では、国民に広く普及し、定着しているといえる。また、将来の「参加希望率」と「現在の参加率」との差である「潜在需要」においても、男性10代ではスノーボードが9位（14.6%）、女性10代ではスノーボードが3位（25%）、スキーが4位（24%）と、特に若い年代から高い関心がもたれていることがわかる。実際、本学にて開講している生涯スポーツ演習Ⅱ（スキー・スノーボード）においても、例年、定員（50名）を超える履修希望者がみられる。

現代社会においては、機械化が進み日常生活が便利になった反面、身体活動量が減少してきているため、生涯にわたり健康な生活を送る上で、運動の果たす役割は大きい。また、日本経済団体連合会の調査<sup>2)</sup>によると、「大学生の採用に当たって重視する素質・態度、知識・能力」について、特に重視されるのは、「主体性」、「コミュニケーション能力」、「実行力」、「チームワーク・協調性」であることが明らかにされている。

これらを踏まえると、大学における体育実技の果たす役割は重要であると思われる。なぜなら、体力面の維持・向上はもとより、生涯スポーツの礎となる技術面の獲得・向上だけにとどまらず、コミュニケーション能力やチームワーク・協調性の

向上などをも期待できるためである。それ故に、本学における生涯スポーツ演習Ⅱ（スキー・スノーボード）は、学外にて宿泊を伴う集中授業形式で行われ、また、技能レベルに応じて、学部学科・学年・性別などに関係なく班編成されて行われることなどにより、それらに対してより大きな授業成果が得られると考えられる。

平成3年に大学設置基準が改正され、大学の自己点検・評価が努力義務化されたことにより、大学における教育活動を自ら点検・評価する動きは盛んになった。これに伴い、体育実技に関しても、これまで学生による授業評価が多く行われており<sup>3) 4) 5)</sup>、特殊な授業形態といえるスキー・スノーボード実習に関しても、多くの研究が行われるようになってきた<sup>6) 7) 8) 9)</sup>。

本学においても、2004年度より全学的に学生による授業アンケートを実施し、授業改善のためのフィードバック情報を得ているが、演習形式である生涯スポーツ演習Ⅱは除外されてきた。

そこで本研究では、生涯スポーツ演習Ⅱ（スキー・スノーボード）における学生による授業アンケートを実施し、授業の方法、成果、満足度等を検討することにより、今後の授業内容の質的向上に寄与する資料を得ることを目的とした。

## Ⅱ. 方法

### 1. 対象

調査対象は、平成23年1月30日～2月3日に、上越国際スキー場にて開講された生涯スポーツ演習Ⅱに参加した42名（スキー12名、スノーボード30名）とした。このうち、本講義の2度目の受講生（本講義には基礎と応用があり、2度受講することが可能）は、5名であった（スキー1名、スノーボード4名）。

表1に受講生の学年・学科別人数、表2に事前授業時の自己申告による技能レベルを示した。

表 1 受講生の学年・学科別人数

学年	学科	人数
4	経営	2
	法律 A	1
3	禅	2
	政治	2
2	仏教	1
	歴史	1
	地理	3
	心理	1
	経済	1
	商	2
	現応経	2
	経営	8
	法律 A	3
	法律 B	2
	政治	1
1	仏教	4
	経済	1
	現応経	1
	経営	3
	法律 A	1

表 2 受講生の技能レベル

スキー	初心者	4 (3)
	初級 (ボーゲン)	4 (1)
	中級 (パラレル)	3 (0)
	上級 (ウェールデン)	1 (0)
	計	12 (4)
スノーボード	初心者	12 (8)
	初級 (木の葉落とし)	1 (1)
	中級 (ロングターン)	16 (3)
	上級 (種々のターン)	1 (0)
	計	30 (12)

(女子内数)

## 2. 授業の概要

スキー・スノーボード実習は、1回の事前授業と現地での4泊5日による実技講習と講義によって行われた。実技講習においては、事前に自己申告した技能レベルと初日に行った技術テストによって、スキー3班、スノーボード6班に分け、それぞれ1名の担当教員によって講習が行われた。

## 3. アンケート項目

質問項目は、「授業の目標・学習効果関連」15項目、「授業の方法について」15項目、「施設等について」5項目、「総合評価」1項目の全36項目とした。

質問項目への回答は、「全くそう思う」、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そう思わない」、「全くそう思わない」の5件法として、それぞれに5点、4点、3点、

2点、1点を与えて得点化した。ただし、「総合評価」についての回答は、「非常に良かった」、「まあまあ良かった」、「普通」、「少し悪かった」、「悪かった」の5点法とした。

調査方法は、自記式配布回収法とし、授業最終日に行った。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. 授業の目標・学習効果関連

表3に「授業の目標・学習効果関連」に関する結果を示した。全体15項目での平均値は、4.56と高い値を示した。

表3 授業の目標・学習効果関連の結果

項 目	平均値	標準偏差	V5	V4	V3	V2	V1
1. 運動量は十分であった	4.73	0.59	80.5	12.2	7.3	0.0	0.0
2. 技能が上達した	4.76	0.43	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0
3. (種目についての) 基本的技術が身についた	4.71	0.51	73.2	24.4	2.4	0.0	0.0
4. (種目についての) 応用技術が身についた	4.12	0.84	39.0	36.6	22.0	2.4	0.0
5. (種目についての) 科学的知識が深まった	3.95	0.89	31.7	36.6	26.8	4.9	0.0
6. 自然と触れ合い、自然についての理解が深まった	4.44	0.71	56.1	31.7	12.2	0.0	0.0
7. 危険性の認識と克服法が習得できた	4.56	0.63	63.4	29.3	7.3	0.0	0.0
8. ゲレンデでのエチケットを学ぶことができた	4.71	0.56	75.6	19.5	4.9	0.0	0.0
9. 新しい友達ができた	4.78	0.47	80.5	17.1	2.4	0.0	0.0
10. 健康や体力が向上した	4.49	0.68	58.5	31.7	9.8	0.0	0.0
11. 生涯を通じてスキー・スノーボードを楽しむための基礎が身についた	4.80	0.40	80.5	19.5	0.0	0.0	0.0
12. 理論と実践を関連づけて学習できた	4.49	0.64	56.1	36.6	7.3	0.0	0.0
13. 身体や健康への関心が高まった	4.37	0.77	51.2	36.6	9.8	2.4	0.0
14. 新たな発見が多くあった	4.78	0.42	78.0	22.0	0.0	0.0	0.0
15. この授業を他の学生にも勧めたい	4.73	0.63	82.9	7.3	9.8	0.0	0.0

V5:「全くそう思う」と回答した割合 (%)

V4:「そう思う」と回答した割合 (%)

V3:「どちらとも言えない」と回答した割合

V2:「そう思わない」と回答した割合 (%)

V1:「全くそう思わない」と回答した割合 (%)

高い値を示した項目は、「生涯を通じてスキー・スノーボードを楽しむための基礎が身についた」(4.80)、「新しい友達ができた」(4.78)、「新たな発見が多くあった」(4.78)、「技能が上達した」(4.76)、「この授業を他の学生にも勧めたい」(4.73)、「運動量は十分であった」(4.73)などであった。このうち「生涯を通じてスキー・スノーボードを楽しむための基礎が身についた」、「新しい友達ができた」は、生涯スポーツへの進展やコミュニケーションの促進に繋がるものであり、大学体育の役割としてもこの授業が有意義であったといえる。

低い値を示した項目はなかったが、全体の結果の中では低く改善を要すると考えられる項目は、「(種目についての) 科学的知識が深まった」(3.95)、「(種目についての) 応用技術が身についた」(4.12)、「身体や健康への関心が高まった」(4.37)などであった。このうち「応用技術が身についた」については、「(種目についての) 基本的技術が身についた」が高い値(4.71)を示していたことをみると、初心者など元々の技能レベルが低く応用技術の習得まで進まなかったことが大きな要因と考えられるが、応用技術の指導への教員のさらなる研鑽も必要であろう。また、「科学的知識」、「身体や健康への関心」については、実技講習よりも事前授業や講義での内容に関係する項目なので、今後それらを改善する余地があるものと考えられる。

## 2. 授業の方法について

表4に「授業の方法について」に関する結果を示した。全体15項目での平均値は、4.62と高い値を示した。

高い値を示した項目は、「指導教員は十分に熱意を持って指導を行っていた」(4.88)、「教員の話し方は良かった」(4.88)、「コミュニケーションは良かった(対教員)」(4.76)、「コミュニケーションは良かった(对学生)」(4.76)、「授業は創造性に富む内容だった」(4.76)であった。

これらの項目が高かったことは、教員の授業方法への満足度が高く、また受講生がコミュニケーション能力を鍛える場として有意義であったといえる。

低い値を示した項目はなかったが、全体の結果の中では低く改善を要すると考えられる項目は、「事前授業の方法・内容は良かった」(4.34)、「理解を深めるための補助手段(VTR・プリント)は適切だった」(4.39)、「オリエンテーションの方法

表 4 授業の方法についての結果

項 目	平均値	標準偏差	V5	V4	V3	V2	V1
1. オリエンテーションの方法は良かった	4.46	0.67	56.1	34.1	9.8	0.0	0.0
2. 事前授業の方法・内容は良かった	4.34	0.73	48.8	36.6	14.6	0.0	0.0
3. (種目内での) 班分けの方法は良かった	4.46	0.81	63.4	22.0	12.2	2.4	0.0
4. 練習形態は良かった	4.66	0.57	70.7	24.4	4.9	0.0	0.0
5. 練習の進行状況は適切であった	4.61	0.67	68.3	26.8	2.4	2.4	0.0
6. コミュニケーションは良かった (対教員)	4.76	0.43	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0
7. コミュニケーションは良かった (対学生)	4.76	0.43	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0
8. 授業は創造性に富む内容だった	4.76	0.43	75.6	24.4	0.0	0.0	0.0
9. この授業から啓発されることが 多かった	4.46	0.71	58.5	29.3	12.2	0.0	0.0
10. この授業は自分が期待していた 通りであった	4.59	0.59	63.4	31.7	4.9	0.0	0.0
11. 指導教員は授業をよく工夫していた	4.71	0.51	73.2	24.4	2.4	0.0	0.0
12. 指導教員は十分に熱意を持って 指導を行っていた	4.88	0.33	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0
13. 実習の時間配分は適切だった	4.61	0.70	70.7	22.0	4.9	2.4	0.0
14. 理解を深めるための補助手段 (VTR・プリント)は適切だった	4.39	0.80	58.5	22.0	19.5	0.0	0.0
15. 教員の話し方は、良かった	4.88	0.33	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0
V5:「全くそう思う」と回答した割合 (%)		V4:「そう思う」と回答した割合 (%)					
V3:「どちらとも言えない」と回答した割合		V2:「そう思わない」と回答した割合 (%)					
V1:「全くそう思わない」と回答した割合 (%)							

は良かった」(4.46)、「(種目内での) 班分けの方法は良かった」(4.46)、「この授業から啓発されることが多かった」(4.46) などであった。これらの結果から、オリエンテーションや事前授業については、今後改善する余地があるものと考えられる。

### 3. 施設等について

表 5 に「施設等について」に関する結果を示した。全体 5 項目での平均値は、4.57 と高い値を示した。

高い値を示した項目は、「ゲレンデは良かった」(4.78)、「場所 (往復も含めて) は良かった」(4.76) であった。今年度より実習地が上越国際スキー場へと変更にな

表5 施設等について

項 目	平均値	標準偏差	V5	V4	V3	V2	V1
1. 場所（往復も含めて）は良かった	4.76	0.54	80.5	14.6	4.9	0.0	0.0
2. ゲレンデは良かった	4.78	0.52	82.9	12.2	4.9	0.0	0.0
3. 宿泊施設（ホテル全般・部屋）は良かった	4.56	0.71	68.3	19.5	12.2	0.0	0.0
4. 食事は良かった	4.27	1.00	56.1	22.0	17.1	2.4	2.4
5. レンタル用具（質・料金）は良かった	3.97	0.90	35.3	29.4	32.4	2.9	0.0
V5:「全くそう思う」と回答した割合（%）	V4:「そう思う」と回答した割合（%）						
V3:「どちらとも言えない」と回答した割合	V2:「そう思わない」と回答した割合（%）						
V1:「全くそう思わない」と回答した割合（%）							

なったが、実習地に対して高い満足度が得られていることがわかった。

低い値を示した項目はなかったが、全体の結果の中では低く改善を要すると考えられる項目は、「レンタル用具（質・料金）は良かった」（3.97）、「食事は良かった」（4.27）であった。レンタル用具に関しては、安全面を第一に考える必要がある。このため、受講生が望んでいるであろう料金が安ければ良いというわけにはいかない。しなしながら、今後も業者の選定も含め検討の余地があると考えられる。安全面の確保という点では、スノーボードの受講生には、大学より貸与したヘルメットを着用させている。

#### 4. 総合評価

表6に「総合評価」の結果を示した。平均値は4.88と高い値を示した。「非常に良かった」が87.8%、「まあまあ良かった」が12.2%と受講生全員が肯定的な評価を示し、「普通」、「少し悪かった」、「悪かった」と回答した受講生が一人もいなかったことから、この授業に対する満足度が非常に高かったと考えられる。これは、綿ら<sup>6)</sup>の研究結果において、総合評価の5段階評定（5点満点）での平均値が4.48であったことから、本実習の評価は非常に高かったといえる。

表 6 総合評価

項 目	平均値	標準偏差	V5	V4	V3	V2	V1
この授業の総合評価は	4.88	0.33	87.8	12.2	0.0	0.0	0.0
V5:「非常に良かった」と回答した割合 (%)			V4:「まあまあ良かった」と回答した割合 (%)				
V3:「普通」と回答した割合			V2:「少し悪かった」と回答した割合 (%)				
V1:「悪かった」と回答した割合 (%)							

#### IV. まとめ

本研究では、生涯スポーツ演習Ⅱ（スキー・スノーボード）における学生による授業アンケートを実施し、授業の方法、成果、満足度等を検討することにより、今後の授業内容の質的向上に寄与する資料を得ることを目的とした。

その結果、以下のことが明らかになった。

1. 授業への総合評価は、「非常に良かった」が87.8%、「まあまあ良かった」が12.2%と受講生全員が肯定的な評価を示し、この授業への満足度は非常に高かった。
2. 生涯スポーツへと繋がる基礎技術の確かな獲得、コミュニケーションの促進は、この授業における大きな学習成果であった。
3. 実技指導に関しては、応用技術の習得に対して、教員が指導方法のさらなる研鑽を図る必要がある。
4. オリエンテーションの方法、事前授業、講義の内容については、改善の余地がみられ、今後は特に実技講習以外の充実も図っていく必要がある。

#### V. 今後の課題

値が低いという項目はなく、全項目において満足度・評価傾向が高いという結果が得られたが、調査の実施が実習最終日であり、一般的に受講生の高揚感が表れやすく、通常よりも高い値を示しているであろうことを考慮しなければならない。また、否定的評価がほとんどなかったことは、質問項目についてさらに精査していく必要があると考えられ、実施方法と共に今後も検討が必要であろう。さらに、単に学生の満足度を高めるだけの授業に陥ってしまわないよう、授業改善のための方向



をしっかりと見定めていきたい。

### 参考文献

- 1) 日本生産性本部（2012）、レジャー白書 2012、生産性出版。
- 2) 日本経済団体連合会（2011）、産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果。
- 3) 麓信義（1997）、学生による授業評価から大学における教養教育授業のあり方を考える - 主として保健体育分野の授業について -、弘前大学教育学部紀要、第 78 号、pp.73-92。
- 4) 井村仁、真田久、佐野淳、西保岳、長谷川悦示、鍋倉賢治、内山治樹、澤江幸則（2008）、平成 19 年度体育専門学群における授業評価結果、筑波大学体育科学系紀要、第 31 巻、pp.211-216。
- 5) 塙佐敏、高橋一栄（2008）、生涯スポーツを志向した大学体育におけるスポーツの役割と意義、新潟医療福祉学会誌、第 8 巻第 2 号、pp.52-57。
- 6) 綿祐二、舛本直文（1993）、「体育実技 B コース：スキー」における学生による授業評価、東京都立大学体育学研究、第 18 号、pp.53-59。
- 7) 本間崇、千足耕一、布目靖則、南隆尚（1995）、正課体育スキー実習における学生による授業評価、大学体育研究、第 17 号、pp.37-48。
- 8) 曾田宏、中西匠、野老稔、二宮恒夫（1997）、スキー実習における授業評価の構造、武庫川女子大学紀要、人文・社会科学編、第 45 巻、pp.49-55。
- 9) 山口立雄（2008）、大学一般教育体育実技のスキー実習に対する受講学生の意識、岡山大学教育実践総合センター紀要、第 8 巻、pp.109-115。